

芸備線利用促進について



令和4年5月11日
広島県
庄原市
(合同発表)



目次

- 1 利用促進事業の全体像
- 2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況
- 3 令和3年度 利用促進事業の取組状況
- 4 評価・今後の取組の方向性

目次

- 1 利用促進事業の全体像**
- 2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況
- 3 令和3年度 利用促進事業の取組状況
- 4 評価・今後の取組の方向性

1 利用促進の全体像

広島県の方向性

方向性①
通勤利用の拡大

方向性②
通学利用の拡大

方向性③
地域住民の外出
増・関係人口の
誘引

方向性④
観光利用の誘引
移動手段の鉄道
への転換

庄原市の方向性

方向性①
生活交通としての
利用促進

方向性②
市外からの乗客
の呼び込み

【事業一覧】

- 庄原市職員による「芸備線利用促進デー」
- 市民グループ運賃助成
- 庄原市内の高校へ通学する生徒を対象とした高校生通学モニター調査
- 交通コンサルによる利便性向上に向けた調査事業
- 官民による利用促進協議会の設置
- 芸備線おもてなしイベント、庄原駅前フェスタ、県境鉄道サミット等
- 広島駅前マルシェ、並木通りミニマルシェ
- 庄原ライナー等の増便に合わせた着地ツアー
- 応援商品開発支援事業
- データ分析による移動実態の把握・分析
- 観光利用促進のための観光プロダクト開発 等

方向性③ 利用促進への市民参画

目次

- 1 利用促進事業の全体像
- 2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況**
- 3 令和3年度 利用促進事業の取組状況
- 4 評価・今後の取組の方向性

2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況【庄原市①】

方向性① 生活交通としての利用促進 (広島県：方向性① 通勤利用の拡大)

庄原市職員による「芸備線利用促進デー」の本格実施

○ 目的

芸備線沿線に居住する市職員が通勤に芸備線を利用することで、乗車人員の増加に繋がるとともに、職員が率先して取り組むことで、芸備線利用の機運を高め、市民や企業等への利用を呼びかけ、利用機会の増大を図る。

○ 内容

- ・ 実施期間：令和3年10月22日～12月27日
- ・ 実施回数：5回
- 全庁及び所属課で設定された「一斉定時退庁日」を、芸備線で通勤する「利用促進デー」と定め、芸備線を利用して通勤。

▼ 芸備線で通勤する職員



▼ 新聞記事



【利用者意見】

- ・ 一過性でない継続的な取り組みが必要。
- ・ 高校生の重要な移動手段だと分かった。
- ・ 利用促進には情報発信が極めて重要。
- ・ 通勤・通学の利用はもとより、観光面など多様な利用促進対策が必要。

2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況【庄原市②】

- 方向性① 生活交通としての利用促進
方向性③ 利用促進への市民参画

庄原市芸備線・木次線利用促進協議会の設置

- 目的
地域において重要な移動手段である芸備線・木次線について、鉄道の持つ広域ネットワークの特性や多様な価値を共有し、地域住民等の利用促進につながる取り組みを推進することにより、利用客の増加に寄与することを目的とし、令和4年3月に設立。
- 内容
 - ・ 組織体制
学識経験者、広島県、観光関係団体、地域団体、庄原市など9名の委員で構成。
「地域チーム」を設置し、芸備線沿線地域である庄原地域、西城地域、東城地域で構成。

▼設立総会の様子



2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況【庄原市③】

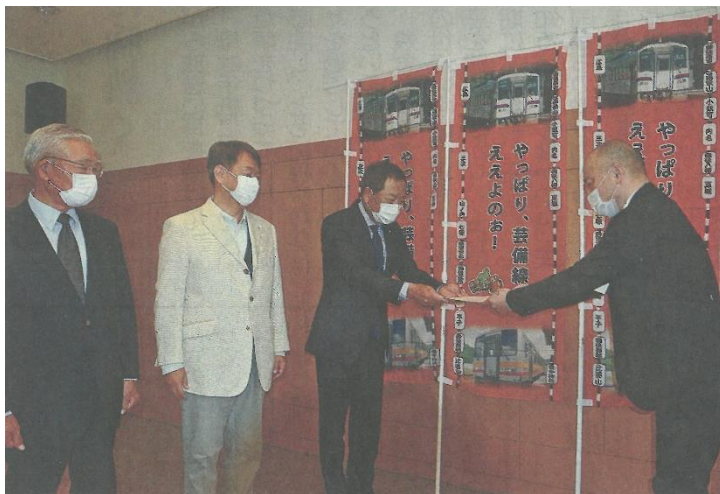
- 方向性② 市外からの乗客の呼び込み
- 方向性③ 利用促進への市民参画

市内各種団体へ利用促進の呼びかけ 等

○ 市内各種団体へ利用促進の呼びかけ

市職員の利用促進デーの取り組みを踏まえ、広く市民や企業等へ利用を呼びかけ、通勤等へ利用してもらうよう働きかけることで、利用機会の増大を図る。（令和4年3月8日：市内3商工団体の会頭・会長へ会員企業・事業所へ芸備線等の利用促進を依頼）

▼依頼時の様子



○ 芸備線の車窓からのフォトコンテスト

令和3年6月21日から令和4年1月31日まで作品を募集した芸備線の車窓からのフォトコンテストについて、応募者80人、177点の応募作品から入賞作品7点を決定した。ポスターサイズの写真パネルを作成・展示し、芸備線の魅力発信や利用促進を呼びかける。

▼フォトコンテスト作品



2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況【広島県①】

方向性② 通学利用の拡大

高校生通学モニター調査

- 目的
高校生の通学利用の拡大を図る。
- 対象者・期間等
庄原市内の高等学校に通う生徒の内、通学で芸備線を利用していない生徒が対象。
【モニター参加者】
 - ・ 庄原実業高校 14名 期間：1/7～2/6
 - ・ 庄原格致高校 4名 期間：1/24～2/23
 - ・ 西城紫水高校 4名 期間：1/24～2/23
- 実施内容
 - ・ 定期券（1ヵ月分）の交付
 - ・ 各生徒に合わせた芸備線の利用パターンを示したチラシの作成配布
 - ・ 二次交通（e-bike）の貸与
 - ・ モニターとの意見交換（利用上の課題・解決策を議論） など

➤ モニター計22名中2名が、その後通学手段を鉄道に転換

▼チラシ

▼意見交換会の様子



2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況【広島県②】

➤ 方向性③ 地域住民の外出増・関係人口の誘引

3/19(土) 鉄道ファン向けイベント

- 目的
芸備線と庄原のファンを増やし、継続的に訪れてもらうことで利用者増を図る。
- 内容・参加者
 - ・ 特別列車の運行 (30名)
 - ・ 沿線フォトスポットツアー (14名)
 - ・ 鉄道写真ランクアップ講座 (18名)

▼チラン等



A 本イベントだけの特別運行!
「乗っ撮れ! 芸備線号」

10:06 三次駅(発)→カーラッピング列車運行
備後落合駅→備後西城駅(着)

案内人
庄原観光推進機構
熊本 洋道さん

撮影指導
マシマ・レイルウェイ・ピクチャーズ 理事
助川 康史さん

アシスタント
元祖鉄道アイドル
豊岡 真澄さん

車内イベントも盛りだくさん!!

- 車内からしか撮影できないスポットをご紹介します
- 元祖鉄道アイドルをモデルとした撮影会
- 備後落合駅で特別撮影会
- 乗客限定のミニゲーム「ヒバゴンを探せ!!」

*編成は予告なく変更になる場合があります。

B 鉄道写真ランクアップ講座

13:15～14:45 /ウィル西城2階

鉄道写真家の助川 康史氏による鉄道写真の撮り方講座、お悩み相談を実施します。

C 芸備線フォトガイドツアー

13:00 ウィル西城集合～14:45 備後西城駅解散

元車掌の林 智雄氏が、おすすめのフォトスポットへご案内。備後西城駅 14:02 発の列車を実際に撮影します。



➤ 参加者に対するアンケートにおいて、本イベントを契機とし、再乗車したいと回答した割合は約95%

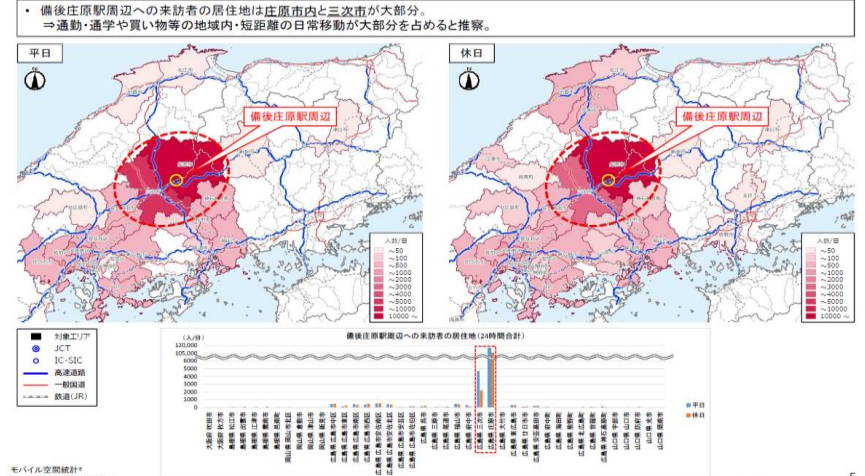
2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況【広島県③】

方向性④ 観光利用の誘引・移動手段の鉄道への変換

データ分析による移動実態の把握と分析

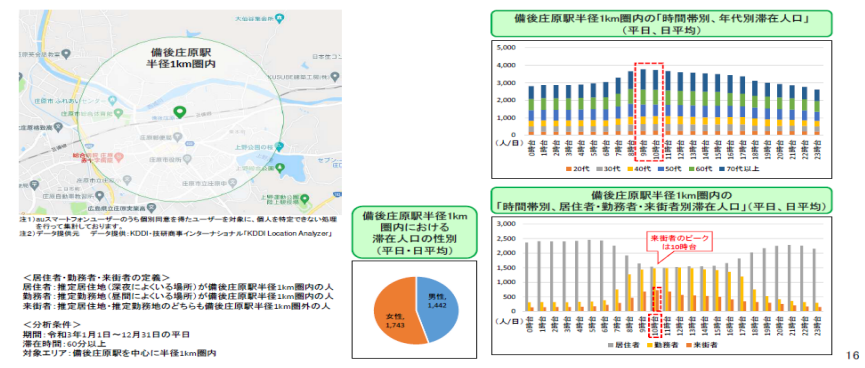
- 目的
 - 移動需要を見える化し、移動手段を芸備線に転換する支援策の実施を図る。
- 内容
 - NTTドコモモバイル空間統計の活用 (NTTドコモユーザの基地局の在圏情報を活用)
 - 対象：芸備線19駅の周辺2km×2km
 - KDDIクラウド型GISの活用 (auスマートフォンユーザのGPS位置情報を活用)
 - 対象：備後庄原駅及び三次駅半径1km

1-5(1). モバイル空間統計／備後庄原駅周辺(2km×2km)への来訪者の居住地



2-2(1). KDDI Location Analyzer／備後庄原駅周辺の潜在人口の属性(平日)

- 平日における備後庄原駅半径1km圏内の潜在人口は、9時~10時台がピークとなっており、70代以上が最も多い。
- 居住者は深夜、勤務者は昼間に多く滞在している。
- 平日における来街者は10時台をピークに、昼間時間帯に多く滞在している。



調査するエリアに
いつ・どんな人 がいるか
人口分布の時間変動に加え、その属性(性・年代)分布が分かります

どこからどこに 移動しているか
ドコ(居住エリア)から、どれだけの人か来ているかが分かります

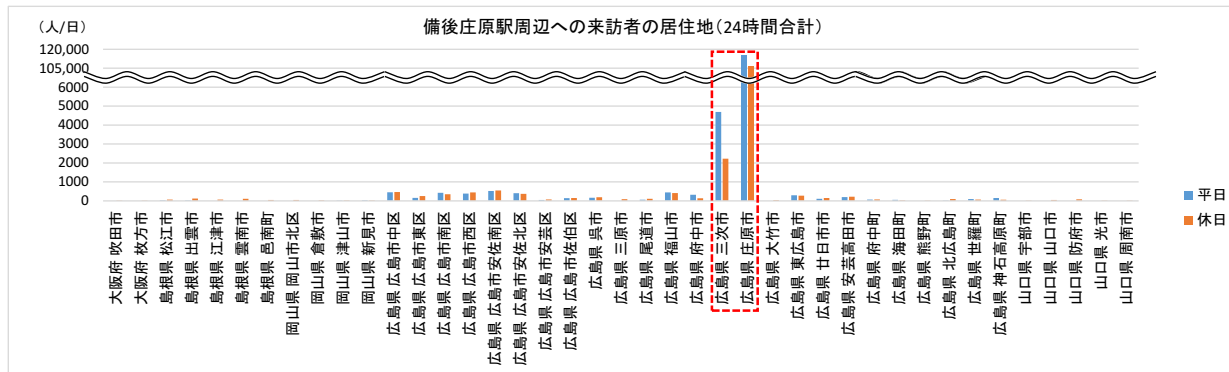
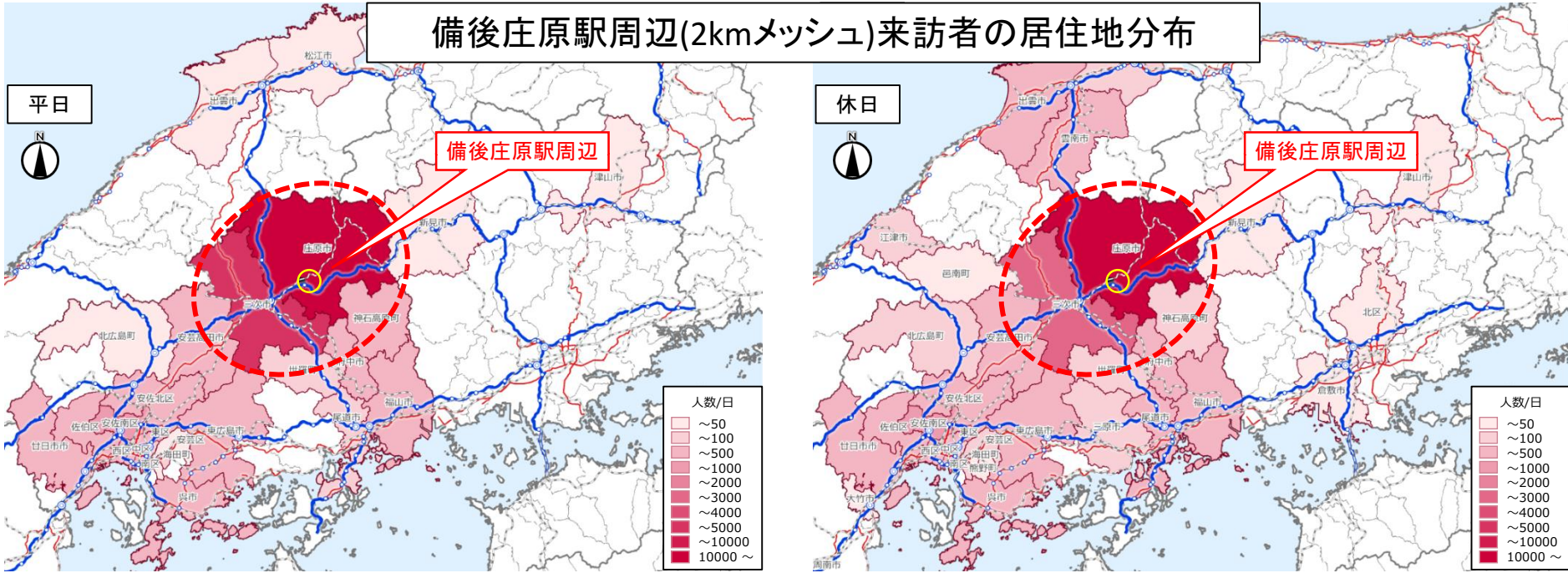
例1 あるエリアに居る人がドコに住んでいるか(居住エリア)

例2 あるエリアに住む人(居住エリア)がドコに移動しているか

2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況【広島県③-①(備後庄原駅)】

方向性④ 観光利用の誘引・移動手段の鉄道への変換

備後庄原駅周辺(2kmメッシュ)来訪者の居住地分布

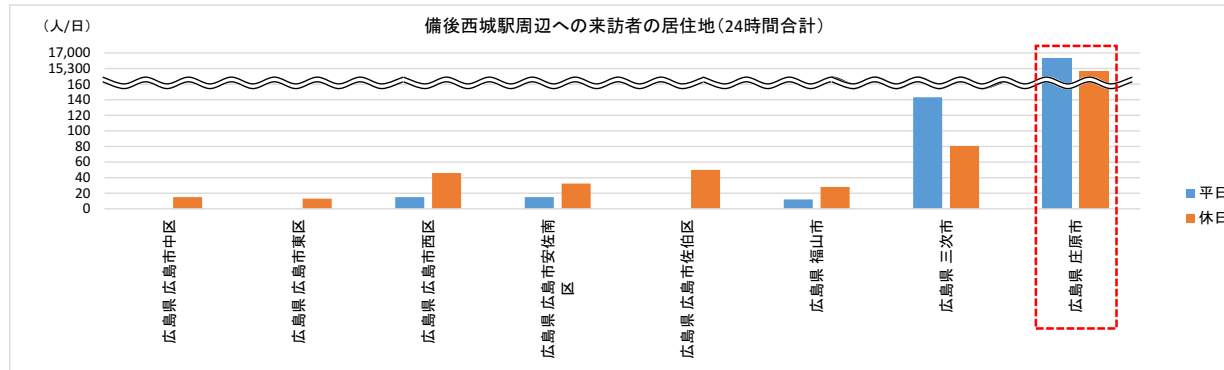
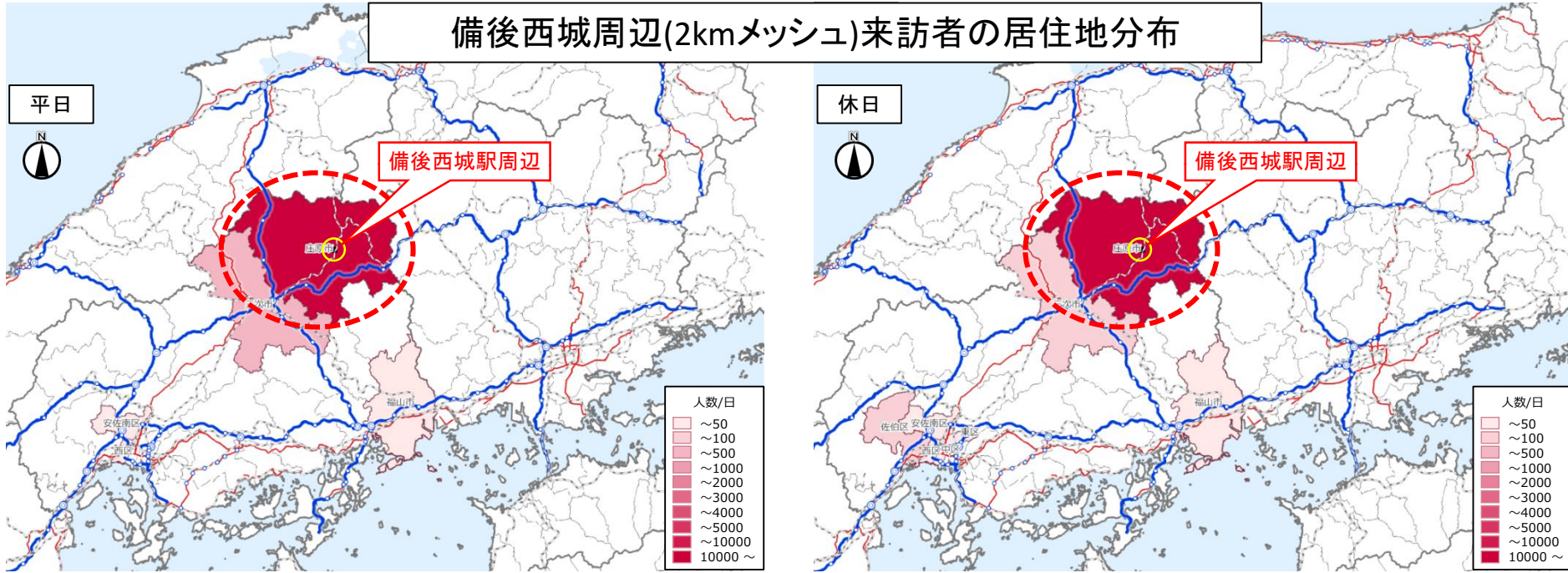


- 備後庄原駅周辺への来訪者の居住地は庄原市内と三次市が大部分。
- 通勤・通学や買い物等の地域内・短距離の日常移動が大部分を占めると推察。

2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況【広島県③－②（備後西城駅）】

方向性④ 観光利用の誘引・移動手段の鉄道への変換

備後西城周辺(2kmメッシュ)来訪者の居住地分布

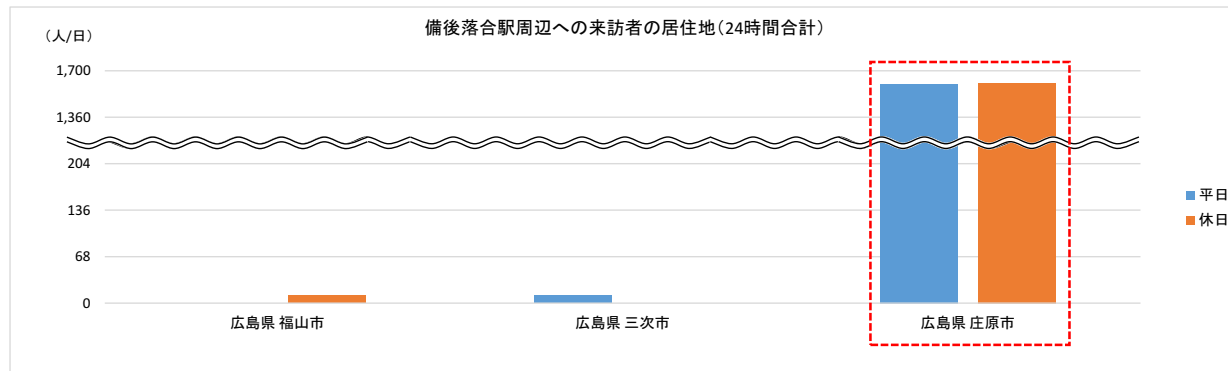
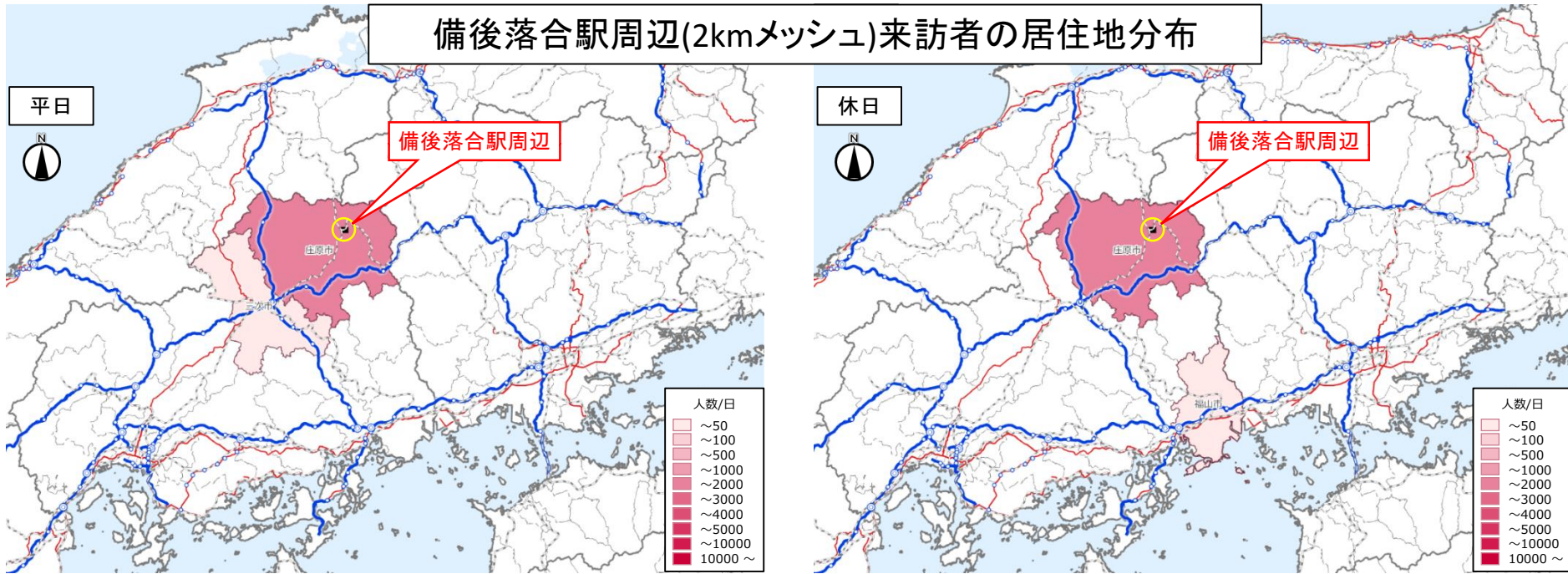


- 備後西城駅周辺の来訪者の居住地は備後庄原駅と比較して来訪者数は少なく、ほとんどが庄原市内からの来訪者

2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況【広島県③－③（備後落合駅）】

方向性④ 観光利用の誘引・移動手段の鉄道への変換

備後落合駅周辺(2kmメッシュ)来訪者の居住地分布

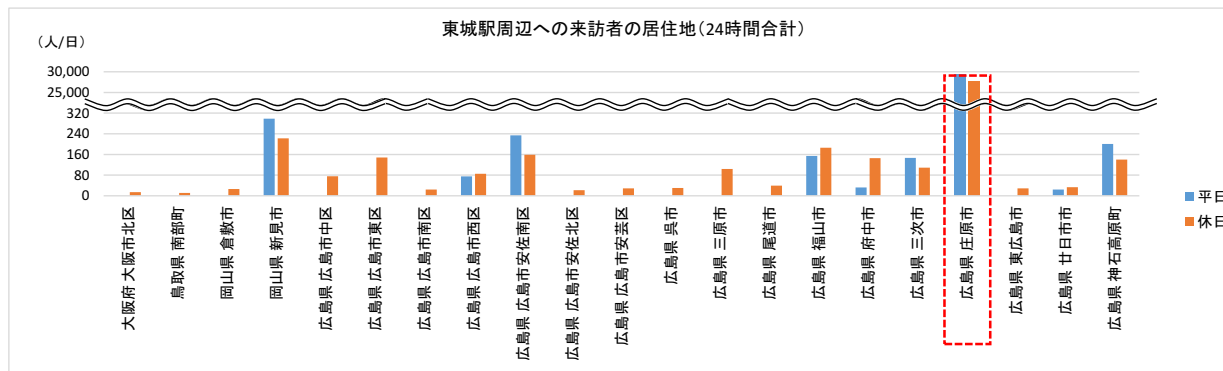
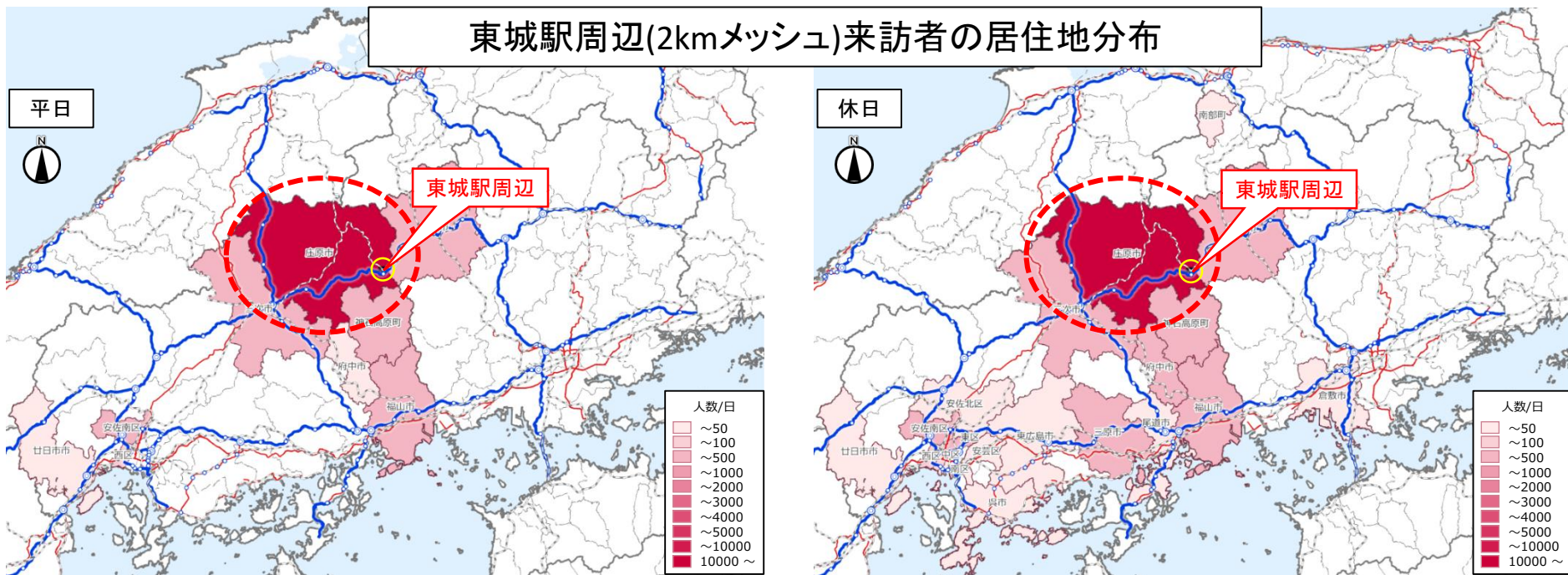


- 備後落合駅周辺の来訪者の居住地は備後庄原駅と比較して来訪者数は少なく、ほとんどが庄原市内からの来訪者

2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況【広島県③－④（東城駅）】

方向性④ 観光利用の誘引・移動手段の鉄道への変換

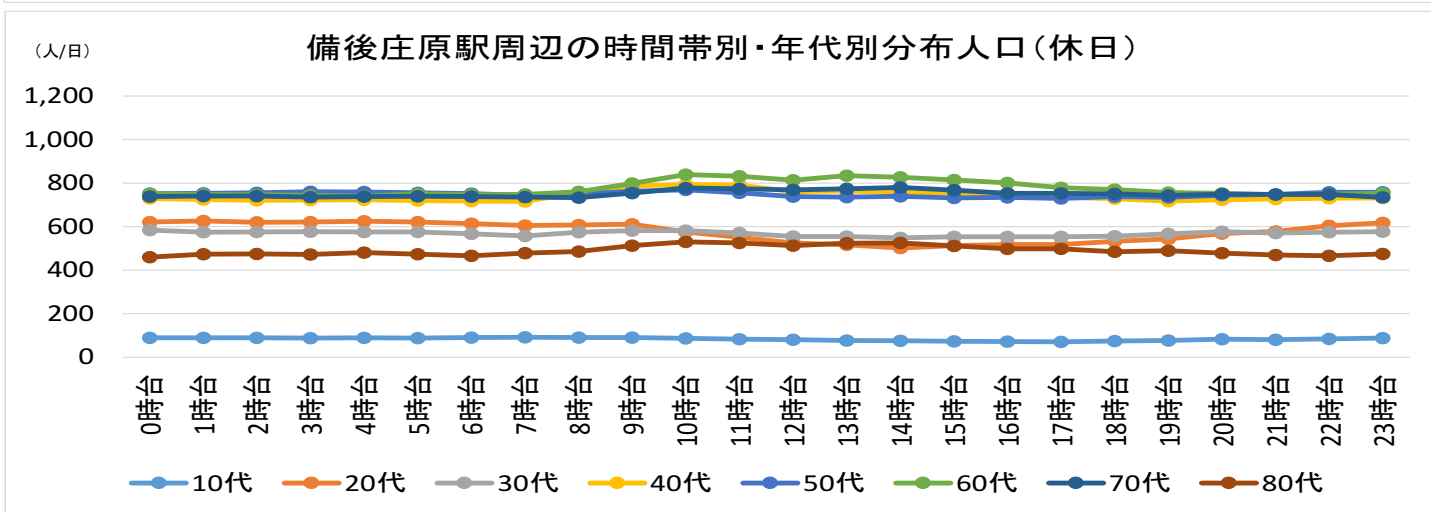
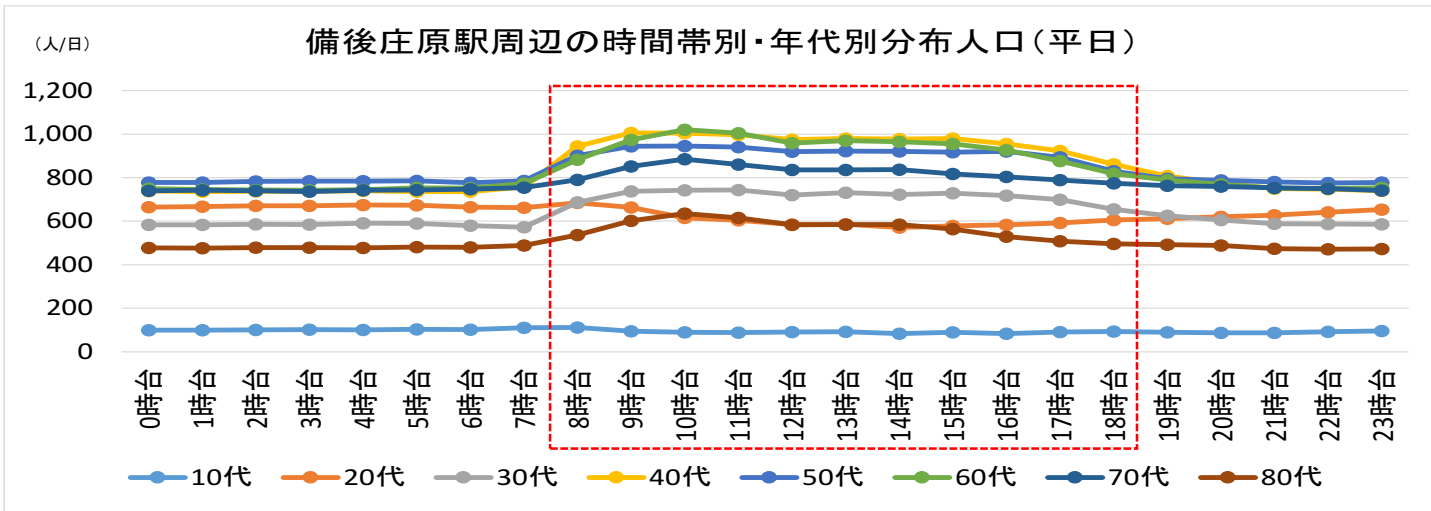
東城駅周辺(2kmメッシュ)来訪者の居住地分布



- 東城駅周辺の来訪者の居住地は備後庄原駅と比較して来訪者数は少なく、ほとんどが庄原市内からの来訪者。

2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況【広島県③-⑤（備後庄原駅）】

方向性④ 観光利用の誘引・移動手段の鉄道への変換



※10代は15歳～19歳

- 平日：8時～18時台において人口が増加しており、中でも40～60代の人口が多い。
- 休日：1日を通じて人口はほぼ一定である。

目次

- 1 利用促進事業の全体像
- 2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況
- 3 令和3年度 利用促進事業の取組状況**
- 4 評価・今後の取組の方向性

3 令和3年度 利用促進事業の取組状況【庄原市①】

➤ 方向性① 生活交通としての利用促進

J R 芸備線利便性向上に向けた調査事業

- 目的
ダイヤの改善に必要なダイヤ調整の技術的な課題等について専門的見地から検討を行うことができる事業者へ調査を委託する。
また、利便性向上と合わせて利用者増加に繋げるため、各種利用促進事業と連動させる。
- 受託者
(一社) 地域公共交通総合研究所
- 内容
 - ・ J R 西日本へダイヤ改善案を提示 (令和4年3月22日協議)
 - ・ 利用促進ケーススタディ実施
 - ① 島根県川本町 (2/21)
 - ② 島根県美郷町 (2/22)
 - ③ 北条鉄道 (3/17)

市民グループ運賃助成

- 目的
市民の芸備線利用を促進する
- 実績 (R3年度)
 - ・ 交付金額: 108,000円 (19件)
 - ・ 乗車人数: 276人 (延べ)

芸備線利用促進啓発事業

- 目的
J R 利用促進に市民自ら参画してもらい、芸備線の地域資源としての重要性を再認識し、芸備線を利用する意識を醸成する。
- 内容
 - ・ 市内主要駅に横断幕を設置 5枚
 - ・ 市内駅などに幟を設置 180枚

署名活動

地元の商業施設では、今昔の芸備線写真展を開催するとともに、芸備線存続を願う署名活動を行い、約1500人分を集めた。

芸備線カープ応援企画 (備後庄原～広島) 10/2(土)

- 目的
庄原市カープ応援隊と協力し、JRを利用した応援事業により市民の芸備線利用を促進する
- 実績
 - ・ 応募総数: 43件
 - ・ 当選者: 23件 (46名)



3 令和3年度 利用促進事業の取組状況【庄原市②】

➡ 方向性② 市外からの乗客の呼び込み，方向性③ 利用促進への市民参画
(+ 沿線地域との連携)

■ 関係・交流人口の増加

J R 芸備線・木次線応援商品開発・販売支援事業

○ 目的

両線のPRを図るとともに，ふるさと応援寄付金による市外からの応援を募るため，芸備線・木次線応援商品の開発を進める。

寄付金を利用者増加に向けた取り組みに活用することで，更なる利用者増加に向けた取り組みを推進する。

○ 実績

- ・ 応援商品開発 3品
 - ① 激辛路線 (吉岡香辛料研究所)
 - ② かき餅揚げ芸備線応援記念BOX (イザナミ茶屋)
 - ③ 芸備線応援特別記念酒 (庄原酒販)
- ・ デザイン経費や商品販売にかかるJRへのロイヤリティ相当の経費を事業者へ補助



※ 一部商品はJR西日本に対しライセンス承諾の手続き中

11/23(火・祝) 県境鉄道サミット (八鉾自治振興センター)

○ 目的

庄原市・奥出雲町・新見市が連携し，芸備線・木次線の利用促進への機運醸成や地域間交流の推進等を図る。

○ 主催：県境鉄道サミット実行委員会 (庄原市・奥出雲町・新見市)

○ 来場者：約400人 (内JR利用者約100人)

○ 内容

- ・ 3市町からの事例発表
- ・ 3市町の特産品
- ・ そばの食べ比べ
- ・ 各地域の特産品販売
- ・ 神楽上演など



10/23(土) 駅前フェスタ (備後庄原駅)

～芸備線対策協議会「芸備線おでむかえイベント」～

○ 目的

芸備線沿線市とともに，秋季臨時増便期間の開始日に「おでむかえイベント」を開催し，駅周辺の活性化と芸備線の利用促進を図る。

○ 主催：庄原駅周辺地区まちづくり協議会

○ 来場者：約500人 (内JR利用者263人)

■ 観光による利用客の増加

庄原ライナーツアー ※ (一社) 庄原観光推進機構

○ 行程

庄原ライナー運行日 (10/23～12/12 土日祝)

○ 実績

- ・ 催行日数 13日/全18日 (72%) ※内訳：帝釈峡コース69人
- ・ 参加人数 165人/目標200人 (83%) 木次線コース96人



備後落合駅

○ 主催

備後落合駅イベント実行委員会

○ 来場者：約300人

(内JR利用者約100人)

○ 内容

- ・ 歓迎セレモニー
- ・ 西城ブルーハーモニー演奏会
- ・ 名物「おでんうどん」販売 など



3 令和3年度 利用促進事業の取組状況【庄原市③】

方向性② 市外からの乗客の呼び込み，方向性③ 利用促進への市民参画
 (+ 駅の魅力づくり + 民間による利用促進活動)

■ 関係・交流人口の増加

カープ号 (ラッピングトレイン)



庄原市の住民有志による「芸備線にカープ号を走らす会」が企画。寄付を募ったり，たる募金を設置するなどし，市内外から応援の声と共にラッピング費用300万円を集めた。

カープ球団も全面協力し，車内には，若手選手10人による「芸備線応援ポスター“ひと肌脱ぐ。”」が掲示された。(カープ球団による応援ポスターは，3か月ごとに入れ替えて，令和4年11月まで掲示予定)

運行を開始した11月28日には，臨時列車が運行され，沿線で住民が旗を振って出迎えたほか，備後庄原駅で開催された歓迎イベントには，庄原駅周辺地区まちづくり協議会やカープ応援隊も協力。

スライリーも登場し，約400人が集まった。カープ号は，令和5年3月まで，芸備線と福塩線で定期運行する。



カレンダー作製

備後庄原駅周辺地域のにぎわいづくりをめざす「庄原駅周辺地区まちづくり協議会」や地元金融機関がカレンダーを作製。



庄原駅周辺地区まちづくり協議会500部作製・完売
 (JR西日本商品化許諾済)

芸備線・木次線 応援ポロシャツ



NPO法人西城町観光協会が，市民一体となって鉄道の活用に取り組む機運を盛り上げるため，庄原市内を走る芸備線と木次線をモチーフとしたポロシャツ約400枚を受注販売。(現在は販売終了)

各駅の取り組み

○内名駅 ～田森自治振興区

- ・ 缶バッジ配布 ・ 駅スタンプ
- ・ YouTube配信



○備後西城駅

～NPO法人西城町観光協会

- ・ 備後西城駅EKINAKA (カフェ)
- ・ SNSによる発信
- ・ 新そばまつり

○備後庄原駅

～市役所+備北丘陵公園・口和郷土資料館

- ・ ドライフラワーによる装飾
- ・ 駅イルミ (備北丘陵公園)
- ・ 蓄音機コンサート (口和郷土資料館)

○山ノ内駅 ～山内自治振興区

- ・ 山ノ内駅周辺の草刈り+乗車体験
- ・ ランタンによる装飾



広商デパート

県立広島商業高校の生徒が芸備線の利用促進に協力したい，との思いから (模擬) 株式会社広商デパートで芸備線沿線の商品を販売。

販売に先立ち庄原市内の地域資源の調査に芸備線に乗って来訪。

10月23日備後落合駅「お出迎えイベント」に芸備線を利用し参加。11月21日広島駅で開催された「芸備線マルシェ」にも協力。

12月11日・12日の広商デパート当日は，沿線商品を販売し，芸備線を盛り上げた。



11/21芸備線マルシェでは，芸備線で産品を運び，広島駅での販売に協力

3 令和3年度 利用促進事業の取組状況【広島県①】

➤ 方向性③ 地域住民の外出増・関係人口の誘引



11/27(土) 並木通りで「庄原芸備線ミニマルシェを実施」

- 目的
庄原の観光スポット・芸備線臨時便などをPR
- 内容
広島市並木通りにて、庄原の産品を販売しつつ、通行する方に観光スポットや臨時便のパネル等を展示してPR
- その他
12/4(土)の庄原駅前イベントへの芸備線を使ったモニター参加者を募集
- 来場者
 - ・ ブースを覗いた方：約400人
 - ・ 産品購入者：約60人

12/4(土) 庄原駅前イベントにて広島市内の雑貨店を限定出店

- 目的
JRでアクセスしやすい駅周辺に目的を作り、鉄道利用者の増加を図る
- 内容
庄原駅前でもフードトラックやダンスなどのイベントを開催。
- その他
11/27(土)に広島市で募集したモニター12人も参加。初めて芸備線に乗車した方も。広島市内の雑貨店が限定出店し、想定を大きく超える売上を確保。
- 来場者
駅イベント来場者：約300人



12/4(土) 自治振興区等で行われているイベントを庄原駅前で開催

- 目的
JRでアクセスしやすい駅周辺に目的を作り、鉄道利用の増加を図る。
- 内容
普段は自治振興区等で開催されているイベント（歌声広場）を庄原駅前で実施。
- 来場者
約35名（普段は主に同イベントへ自家用車等で来場している方。）

3 令和3年度 利用促進事業の取組状況【広島県②】

➡ 方向性③ 地域住民の外出増・関係人口の誘引
(地元市・沿線協議会が企画する利用促進策への補助)



芸備線おもてなしイベント

- 実施団体：芸備線対策協議会
- 時期：10/23
- 内容：4 駅同時にイベントを開催
 - ・ 井原市駅(参加者約500人)
ハング・パラグライダー見学, 産直市, 荒谷山ツアー等
 - ・ 向原駅(参加者30人)
道の駅三矢の里あきたかた・紅葉の郡山城跡をめぐるとツアー
 - ・ 三次駅(参加者約500人)
JRふれあい体験, 歴代列車ヘッドマーク展示, 市内観光周遊シャトルバス 等
 - ・ 備後庄原駅 (参加者約500人)
駅前フェスタ (前記参照)



駅カード・情報誌作成 スタンプラリー

- 実施団体：芸備線対策協議会
- 時期：10/23～(※)
- 内容：
 - ・ 各駅の駅カードを作成し、鉄道利用者に配布。(※無くなり次第終了)
 - ・ スタンプラリー応募用台紙は備後庄原駅と上下駅で配布(※～12/26)
 - ・ 観光スポットや鉄道情報等を記載した情報誌を作成。



フォトジェニック オブジェ設置

- 内容：
 - 志和口駅周辺地域と協働し、子供から高齢者まで様々な地域住民100名の写真を撮影し、100本の「のぼり旗」を設置。
- 実施団体：芸備線対策協議会
- 時期：10/23～12/26

3 令和3年度 利用促進事業の取組状況【広島県③】

方向性③ 地域住民の外出増・関係人口の誘引 (県内自治体・民間による利用促進活動)

芸備線への愛を「つなぎ絵」で

- ・ 安芸高田市の向原高校が芸備線関連の絵やメッセージをリレー形式で模造紙に描く「つなぎ絵」を企画。
- ・ SDGsの一環で「住み続けられるまちづくりを」「パートナーシップで目標を達成しよう」を目指したもので、広島市を含む周辺の小中高校、保育園に呼び掛けて協働で作成。
- ・ つなぎ絵は各校、保育所等を順次回り、完成後は安芸高田市と広島市内各駅等への展示を予定。
- ・ 同じく両市沿線の9つの高齢者施設などが趣旨に賛同し、今年2月の作成を目指す。



カープ号たる募金 (庄原市以外の支援)

三次ワイナリー、安芸高田市の甲立地域振興連合会、広島市安佐北区の自治組織、城北高校、福塩線沿線の上下町などでも住民有志がたる募金で支援。



三次高校WS

- ・ 利用促進策について、三次高校生と大人と一緒に考えるワークショップを6月から開催
- ・ 7月に三次駅でフィールドワークを行い、12月に最終報告会を実施
- ・ 高校生の考える利用促進策をJR西日本三次鉄道部等にプレゼン



目次

- 1 利用促進事業の全体像
- 2 令和3年冬 利用促進事業の取組状況
- 3 令和3年度 利用促進事業の取組状況
- 4 評価・今後の取組の方向性

4 評価・今後の取組の方向性

➤➤ 利用促進事業の全体像から

広島県の方向性

方向性①
通勤利用の拡大

方向性②
通学利用の拡大

方向性③
地域住民の外出
増・関係人口の
誘引

方向性④
観光利用の誘引
移動手段の鉄道
への転換

庄原市の方向性

方向性①
生活交通として
の利用促進

方向性②
市外からの乗客
の呼び込み

【事業一覧】

- 庄原市職員による「芸備線利用促進デー」
- 市民グループ運賃助成
- 庄原市内の高校へ通学する生徒を対象とした高校生通学モニター調査
- 交通コンサルによる利便性向上に向けた調査事業
- 官民による利用促進協議会の設置
- 芸備線おもてなしイベント、庄原駅前フェスタ、県境鉄道サミット等
- 広島駅前マルシェ、並木通りミニマルシェ
- データ分析による移動実態の把握・分析庄原ライナー等の増便に合わせた着地ツアー
- 応援商品開発支援事業
- データ分析による移動実態の把握・分析
- 観光利用促進のための観光プロダクト開発 等

方向性③ 利用促進への市民参画

4 評価・今後の取組の方向性【庄原市・広島県①】


 庄原市：方向性② 市外からの乗客の呼び込み，方向性③ 利用促進への市民参画
 広島県：方向性③ 地域住民の外出増・関係人口の誘引

芸備線おもてなしイベント，庄原駅前フェスタ，県境鉄道サミット等

【結果】	備後庄原駅	乗降者数	要素	利用促進前(10/16)対比
	10/16 (土)	63人	利用促進前	—
	10/23 (土)	265人	増便，着地ツアー 駅前イベント	320%増
	11/20 (土)	121人	増便，着地ツアー	92%増
	12/ 4 (土)	192人	増便，着地ツアー 駅前イベント	204%増
	備後落合駅	出発時乗車人数	要素	利用促進前(10/16)対比
	10/16 (土)	58人	利用促進前	—
	10/23 (土)	91人	増便，駅前イベント	56%増
	11/20 (土)	105人	増便	81%増
	11/23 (火・祝)	126人	増便，鉄道サミット	117%増
	12/ 4 (土)	98人	増便	68%増

参照：備後落合駅10/23・11/20・11/23・12/4の数字はJR西日本乗込調査

※ 備後落合駅は乗降客が少ないため，出発時乗車人数で比較

4 評価・今後の取組の方向性【庄原市・広島県②】

- 庄原市：方向性② 市外からの乗客の呼び込み，方向性③ 利用促進への市民参画
広島県：方向性③ 地域住民の外出増・関係人口の誘引

芸備線おもてなしイベントや県境鉄道サミット等のイベント開催,官民による利用促進協議会の設置

【評価】

- ・ 駅及び周辺施設において，普段庄原では買えないような物販や，家族で楽しめるイベント等の開催によって，地域の賑わい創出に寄与し，加えて，期間中の増便もあり，利用増につながった。
- ・ 官民による利用促進協議会の設置により駅の環境整備や，駅舎・周辺施設を利用した自治会行事の定着化など，地域住民が駅を訪れる理由があれば，芸備線を利用する可能性が高くなる。



【今後の取組の方向性】

地域住民がわざわざ駅に行きたくなるような理由をつくる

4 評価・今後の取組の方向性【庄原市・広島県③】

- 庄原市：方向性② 市外からの乗客の呼び込み
広島県：方向性③ 地域住民の外出増・関係人口の誘引

庄原ライナーツアー、ツアー造成助成、観光プロダクト開発などの実施

【評価】

- ・ 市外からの誘客については、関係人口の誘引にとどまり、本格的な観光客の誘引の取り組みができていない。
- ・ コロナ禍の影響により実施した利用促進策については、十分な成果を出せていない。
- ・ 観光プロダクトの開発についても令和3年度では準備にとどまった。
- ・ 広島県の観光客の行動分析も令和4年度に実施する予定となっている。



【今後の取組の方向性】

コロナ禍後のインバウンドなどの観光誘客に向けた、観光プロダクト開発などを行う予定であり、市外からの誘客、関係人口の誘引による利用者増を図る。

また、広島県は観光客の行動分析を行うこととしており、この調査と連動した取り組みを展開する。

4 評価・今後の取組の方向性【庄原市①】

➡ 方向性① 生活交通としての利用促進
(※ 広島県：方向性① 通勤利用の拡大)

庄原市職員による「芸備線利用促進デー」

【結果】

エントリー数：56名（延べ利用者172名）
※ 全職員約500名

【評価】

- ・ 市役所職員自ら通勤利用することで、通勤利用時における課題を把握できた。
- ・ 今後、沿線企業等の通勤利用が促されるよう、把握できた課題を解決する仕組みが必要。

【今後の取組の方向性】

課題をクリアし、沿線企業等の利用増大につなげる



4 評価・今後の取組の方向性【庄原市②】

➤ 方向性① 生活交通としての利用促進, 方向性③ 利用促進への市民参画

官民による利用促進協議会の設置

【結果】

「庄原市芸備線・木次線利用促進協議会」及び
「地域チーム」（沿線の庄原, 西城, 東城で構成）の設置

【評価】

- ・ 地元住民・団体等が参画した利用促進策を協議・検討する組織が結成された。
- ・ 今後,住民自らが取り組む利用促進策の実施と芸備線の地域における価値を踏まえた利用促進につながる議論の活発化が期待される。



【今後の取組の方向性】

地元住民等の目線での日常利用を中心とした促進策の展開

4 評価・今後の取組の方向性【広島県①】

➤➤ 方向性② 通学利用の拡大

庄原市内の高校へ通学する生徒を対象とした高校生通学モニター調査

【結果】

モニター22名中2名が通学手段を鉄道に転換

【評価】

- ・ 車内の快適性や、友人とお喋りがしやすいなど、楽しさを感じてもらうことができ、2名の生徒が転換した。
- ・ 通学方法が決まってしまう生徒への声掛けだったため、生活スタイルの変更を伴い、転換への誘導が困難だった。
- ・ 高校への通学方法がまだ決まっていない中学生にアプローチする必要がある。
- ・ 待ち時間の過ごし方及び芸備線車内での通信環境に不満がある。

【今後の取組の方向性】

中学生へのアプローチと環境（駅舎・通信環境等）の整備



4 評価・今後の取組【広島県②】

方向性④ 移動手段の鉄道への転換

データ分析による移動実態の把握・分析

【結果】

移動実態の把握（平日の地域内・短距離移動が多いことから通勤・通学や買い物等の日常利用が多くを占める。等）

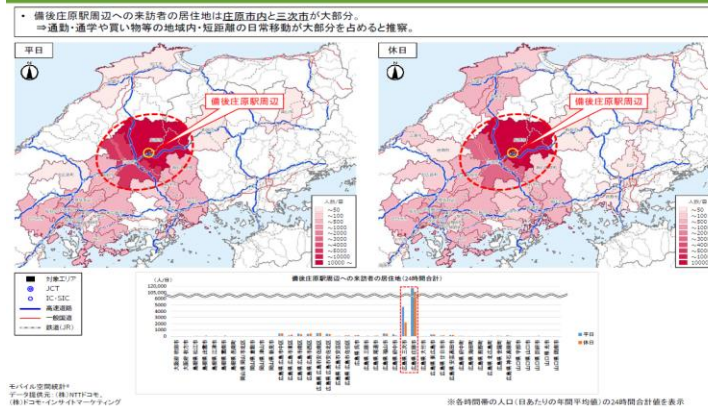
【評価】

- ・ 駅周辺に来訪する人の居住地等、移動実態・移動ニーズの把握につながり、移動手段の転換を考える上で必要なデータを得ることができた。
- ・ 観光客（インバウンド含む）などを意識した把握ができていないことから、域外人流を把握する必要がある。

【今後の取組の方向性】

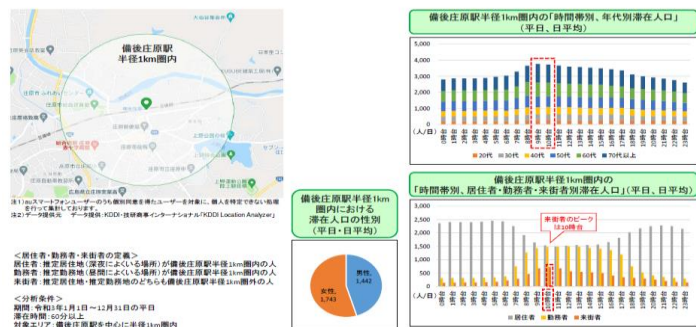
域外の人流を調査するため、調査エリアを拡大

1-5(1). モバイル空間統計／備後庄原駅周辺(2km×2km)への来訪者の居住地



2-2(1). KDDI Location Analyzer／備後庄原駅周辺の滞在人口の属性（平日）

- ・ 平日における備後庄原駅半径1km圏内の滞在人口は、9時・10時台がピークとなっており、70代以上が最も多い。
- ・ 平日における来街者は10時台をピークに、昼間時間帯に多く滞在している。



4 評価・今後の取組の方向性

▶▶ まとめ

- 日常利用への転換を図る行動変容につなげていくためには、主たる利用者である住民の納得感が必要である。
- そのためには、住民主体の議論やそれを踏まえた社会実験などを重ねていく必要がある。
- 観光利用の促進において、新しい取組の成果を見極める必要がある。

庄原市

「3つの柱」により、関係者が一丸となったインパクトのある利用促進対策を実施し、利用客の増加に資する取組を推進する。

- 生活交通としての利用促進
- 市外からの乗客の呼び込み
- 利用促進への市民参画

広島県

芸備線を利用していない人を芸備線利用者に転換していくよう、利用促進やその取組支援に取り組む。

- 芸備線に乗る、駅に来る機会の創出
- 幅広い世代への効果的な情報発信
- 芸備線利用促進の高まった機運を行動に転換

4 評価・今後の取組の方向性 >>> 具体的な取組①

庄原市：方向性①生活交通としての利用促進

広島県：方向性①通学利用の拡大，方向性②通勤利用の拡大

方向性③地域住民の外出増・関係人口の誘引

拡
充

市民グループ運賃助成【予算額 60万円】

- ・ 市内の駅から芸備線を利用する市民グループに，芸備線の運賃を助成する。
- ・ 利用促進の取組をさらに推進するため，制度を1年間延長し，対象となるグループを5人から4人に制度を拡充。日帰り利用や長距離利用も対象に追加。

JR芸備線利用促進 プロデューサー活動事業

【予算額 124.4万円】

令和3年度に引き続き，関係機関や沿線自治体との連携強化に取り組む。

新

JRなみか，ほろか決済事業【予算額 40.4万円】

- ・ 券売業務を行う市内4駅において，本市独自のキャッシュレス決済カード「なみか・ほろか」による乗車券の購入ができる体制づくりを進める。
- ・ JR芸備線の利便性を向上させるとともに，カード決済時にポイントを付与することで，利用者数の増加を図る。
- ・ 定期券の購入は通常の10倍のポイントを付与し，定期券利用者の増加につなげる。

市内各種団体へ 利用促進の呼びかけ

市職員の利用促進デーの取り組みを踏まえ，広く市民や企業等へ利用を呼びかけ，通勤等へ利用してもらうよう働きかけることで，利用機会の増大を図る。

新

【バス事業者の取り組み】「ちよこっとパス プラス」

- ・ JR定期券を持つ高校生を対象として，JR定期券の区間の路線バスが乗り放題になる企画乗車券を1年間の限定で販売。
- ・ JRとバスの組み合わせにより利便性の向上を図るとともに，公共交通の利用機会を促進する。



4 評価・今後の取組の方向性 >>> 具体的な取組②

庄原市：方向性②市外からの乗客の呼び込み

広島県：方向性③地域住民の外出増・関係人口の誘引

方向性④観光利用の誘引|移動手段の鉄道転換

新

■観光による利用客の増加

観光プロダクト開発 【予算額 463.3万円】

鉄道の持つ広域ネットワークの特性を活用し、コロナ禍後のインバウンドなどの観光誘客に向けた、沿線資源を活用した観光プロダクト開発などを行う。（これまでに無い新たなサービスを創り出す）

- ・ 観光プロダクト開発（新たな切り口での観光サービスの提供）に向け、広島県観光連盟との連携による開発する。
- ・ 観光プロダクト開発のひとつの切り口である「地域の人の暮らしに触れる旅」にかかるテストマーケティングとして、鉄道を利用し、地域の住民との交流を通じ、沿線地域の自然・歴史・文化などに触れる新たな旅「ローカルダイブ・トレインto庄原（仮称）」を企画・実施する。

■「ローカルダイブ」とは...

直訳すると「地方への飛び込み」

■「ローカルダイブトレイン」とは...

ローカル線に乗って、その地域ならではの人やモノ、コトに触れに行く企画。

下車した先での体験はもちろん、車窓や乗車体験自体もローカルダイブの一部になる。なぜなら、鉄道は道路と比べて生活空間との密着度が高いと言われており（鉄道は家のすぐ裏を走っていたりするので暮らしが垣間見える、高速道路のように壁が無い）、ローカル線の車窓は、それ自体がその地域の生活感に触れる体験となる。

■今年度計画するモニターツアー

コンセプトは「行きと帰りで車窓が変わる！」

農林業、観光業、農家、収穫の現場、地域の祭りなどに参加者が入り込むことで、農地、山、川などを見たときに、庄原で出会った人の顔が浮かび、庄原で感じた・学んだ、人や自然の営みを感じることができる。それがまた、自分の日常とも関わっていることを想像でき、行きと帰りの車窓は全くちがったものに見える・・・はず。

4 評価・今後の取組の方向性 >>> 具体的な取組③

庄原市：方向性②市外からの乗客の呼び込み

広島県：方向性③地域住民の外出増・関係人口の誘引

方向性④観光利用の誘引移動手段の鉄道転換

■関係・交流人口の増加

新 芸備線・木次線観光資源情報発信事業 【予算額 35万円】

- ・ 幅広い世代に向けた芸備線・木次線を活用した観光情報をポータルサイトで情報発信し、利用者の増加及び誘客促進に取り組むとともに、地域活性化につなげる。
- ・ 交通弱者である高校生等に向けた広報手段を確立するよう、県のSNS（Twitter, TikTok等）等も活用する。

J R 芸備線・木次線応援商品開発・販売支援事業 【予算額 406万円】

- ・ 芸備線・木次線のPRを図るとともに、ふるさと応援寄付金による市外からの応援を募るため、芸備線・木次線応援商品の開発を進める。
- ・ 寄付金を利用者増加に向けた取り組みに活用することで、更なる利用者増加に向けた取り組みを推進する。
- ・ 令和3年度に商品開発した3品の販売支援を行うとともに、新たな商品のブラッシュアップに取り組む。

4 評価・今後の取組の方向性 >>> 具体的な取組④

庄原市：方向性③利用促進への市民参画

広島県：方向性①通学利用の拡大，方向性②通勤利用の拡大

方向性③地域住民の外出増・関係人口の誘引，方向性④観光利用の誘引移動手段の鉄道転換

【予算額 279.6万円】

新

官民連携による利用促進の推進

令和4年3月に官民で組織した芸備線・木次線利用促進協議会で，市と市民，市内の各種団体が連携し，地域住民の利用や観光での利用促進につながる取り組みを推進

→ 会議の開催，利用促進につながるシンポジウム・研修会等の開催 など

新

沿線の各種団体が行う利用促進活動への支援

芸備線・木次線利用促進協議会で，沿線の各種団体が実施する利用促進活動（駅周辺でのイベント開催・清掃活動・草刈など）を支援

→ 活動支援交付金の交付 など

新

市民・団体による活動の情報発信

芸備線・木次線利用促進協議会で，沿線の各種団体が実施する利用促進活動などの情報を取りまとめ，発信する。（芸備線・木次線の誘客にもつなげていく）

→ ホームページの開設 など

県境鉄道サミット【予算額 40万円】

JR芸備線・木次線でつながる県境のまちである奥出雲町，新見市，庄原市が連携し，「県境鉄道サミット」を開催し，地域間交流による利用促進への機運醸成，圏域外からの誘客促進による利用者の増加を図る。

芸備線利用促進啓発事業【予算額 40.4万円】

限定デザインの庄原市芸備線グッズを作成し，イベント参加の動機付けを行うとともに，グッズを芸備線利用促進のPRに活用することで，市内の芸備線の利用促進を図る。

地元市・沿線協議会が企画する利用促進策への補助（広島県）【予算額 2,000万円】

住民の利用促進機運を醸成するため，芸備線を利用し，盛り上げる取組を行う地元市，沿線協議会が企画する利用促進策への補助。

ご清聴ありがとうございました。